

あらぐさ



3年生卒業研究発表会 山梨市民会館12/12, 13



3年生 卒業



卒業研究発表会を終えていざ国家試験へ 3年担任：塩澤

2017年12月12・13日の2日間、3年間の学びの集大成である卒業研究発表会が山梨市民会館で行われました。

これまで積み重ねてきた実習の総時間数は約1500時間。大いに悩み、つまずき、時に涙しながら目の前の患者さんに全力で向き合い続け構築された看護観。そして発表された数々の実践は、学生一人ひとりにしか語ることの出来ないかけがえのない宝物でした。看護観は、寄り添うこと、対象を理解すること、個別性を追求すること、安全を守ること、生活を支えること、苦痛を取り除くこと、ゆとりを持つことなどなど41名41通り。それはこれからの看護師人生の土台となり、さらに今以上に広がり発展していくものとなるはずです。

2日目の午後には、苫小牧病院の幌沙小里さんに「健康権を保障する外来看護—SVS(Social vital signs)調査の取り組みからー」というご講演をいただき、地域に生活する生活者として対象を捉え、社会的背景を捉える視点を養う重要性を実感することが出来ました。

これから様々な場所で活躍するであろう37期生。ここまで一步一步歩んできた道のりはこれからみんなの背中を押すエネルギーになるはずです。自分を信じ、仲間を信じて、まずは夢への扉“看護師国家試験全員合格”を目指して、駆け抜けていきます！



4ヶ月実習がんばっています

2年担任：佐々木

38期生は10月から2月まで4ヶ月の長期の臨地実習に取り組んでいます。内科や外科、小児、障害児保育園、母性など、あらゆる年齢の看護の対象との出会いから、様々な経験をすることができました。ペア実習で考え方の違いから仲間との関係性に苦悩する場面もありましたが、患者さんのために奮闘するペアやグループメンバーの姿から学びを深め、助け合い、これまで見ない仲間の一面を知る機会にもなりました。また看護展開を行っていく中で、自分が大切にしたいことはなんだろうということも少しずつ認識し始めているように感じられる看護実践だと感じています。

実習後は、後期期末試験に挑み、3年次の春に行われるケースレポート発表会の準備に入ります。昨年よりもさらに高いハードルがいくつもあった二年次ですが、この1年を乗り越えられたのはご家族の支えがあったからだと感じております。あらゆる場面でのサポートをありがとうございます。

来年度はいよいよ3年生です。クラスの仲間と助け合い・支え合い・仲間を大事にしながら充実した3年次になることを期待しています。



戴帽式を終えて

1年担任：鈴木

11月には戴帽式が行われました。今年度から戴帽を行わず、胸花をもらい看護師になる決意を固めました。多くの意見をまとめる苦労、大勢の前で意見をのべる勇気、違う意見を否定せず受け止める努力などの経験をしながら、看護の道を歩む決意をあらたにしています。本番ではこれまで支えてくれた家族や先輩に見守られながら、一人ひとりが感動の涙で声を震わせ、それぞれの思い描く看護師像に向けて歩み続けることを誓い、会場は言葉に出来ないほどの感動に包まれ、未来の医療を担う看護師の卵たちの姿はとても頼もしく、愛おしさを感じました。39期生は、戴帽式に向けた取り組みを通して、かけがえのない命を持った患者さんのために頑張り続ける事の出来る一人ひとりであることを確信しています。そんな彼らをこれからも全力で応援し、看護について共に学び合っていきたいと、担任・副担任ともに心あらたにした式となりました。

冬季休暇明けから、疾患や看護の学習が本格的にはじまり、2月には12科目の後期終講試験にむけて、休み時間も勉強に励みました。来週からは基礎看護学実習Ⅱではじめて1人で患者さんを担当します。事前学習に技術練習に忙しい毎日です。苦しい時には励まし合い、心配し合い、乗り越えさらに成長していくことを期待しています。



学生自治会活動

フードバンク参加報告 -1年 柳場あみ



平成29年12月23・24日、山梨県立甲府東高等学校にてフードバンク山梨主催の「フードバンクこども支援プロジェクト」がありました。今回は食品集めから携わりました。各家庭の幸せを願いながら、共立高等看護学院からは10箱の食糧を寄付しました。さらに、フードバンク全体では夏季の約3倍近く集まりました。私はこれを知り、皆様の温かい心を感じました。これらを学生や企業・個人参加の方で箱詰めをし、580個ものクリスマスプレゼントが出来ました。

私は今回を通して、普段当たり前のように食事が出来ていることの幸せを感じることができました。これからも、このような取り組みを通して1人でも多くの子供達が幸せになれるよう、協力していこうと思います。

スキー実習(保健体育)

12月25日から27日までの2泊3日の日程で、保健体育の授業でスキー実習が行われました。3学年合同で行われるスキー実習は、毎年長野の志賀高原で行われています。最高のパウダースノーで、初心者から上級者まで、カウンセラーに指導をいただきながら元気に滑り切ることが出来ました。夏に行われるキャンプ同様、学年縦割りのグループで、後輩も先輩も分け隔てなく交流を深め、絆も深まる実習になりました。3日目の最終日には毎年恒例になつた吹雪に見舞われることもありましたが、大きなかがもなく無事に終えることが出来たのは、一人ひとりの頑張りと、講師の川村協平先生を始めとするカウンセラーのみなさんの支えがあったからです。絆深まる共立スキー、また来年も楽しみです！



卒業研究発表を終えて -3年生

湯浅 早紀

37期生の卒業研究発表会では様々な事例が発表され、3年間の実習を通して導きだされた看護を共有し合うことができました。患者さんそれぞれの目標を達成するためにはどんな看護をすれば良いのかを常に考えて実習に取り組んできました。1年生の時は「看護」とは、患者さんに医療や看護を与えていくことだと思っていました。しかし、卒業研究発表を終えた今、「看護」とは患者さんに与えるものばかりではなく、患者さんから生きるということがどんなに尊く喜ばしいことか、健康でいられる喜びや家族と過ごせる時間の尊さなど、多くのことを学ばせてもらっていることに気づかされました。看護は与えるものではなく、逆に与えられるものなのだと気付くことができ、自分の看護観を深めることができました。



坂井 美紗

看護学校に入学して3年間の集大成として12月に卒業研究発表会を行いました。それが最後の実習で出会った患者さんへの看護を発表しました。目の前の患者さんと真剣に向かい、患者さんに対しての最善を目指すために行われた看護実践からはたくさんの学びを得ることができました。そして、その一つひとつにドラマがあり、発表を聞いているだけでその情景が目に浮かぶようでした。卒業研究発表会では41通りの看護に触ることができましたが、“患者さんの立場に立つ”という点においては37期生全員が同じ方向を向いていたように感じます。今回の発表会で再確認したそれぞれの看護に對しての思いを大切に、今後も深めていきたいです。



山梨看護学会に参加して-2年生

猪股歩

発表を聞き、看護研究とは臨床の看護師が日々の業務の中で、看護をより良いものにするため、身近な疑問や問題に取り組み、研究の結果を今後の看護に活かしていくため行っていると感じました。

医療とは疾患によって基本的な治療や看護は決まっているが、その基本をもとにどれだけ個別性に合わせた関わりができるか、という部分が患者の身体、精神的な部分に大きく影響を及ぼすと考えます。看護研究は個別性を追求するため、日々の看護を理論的に証明するため研究結果により問題や課題を浮き彫りにすることでき、個別の看護に繋げていくことができると学ぶことができました。

今後はチームの中で行われている看護を当たり前だと決めつけず、なぜその看護が行われているのか、もっと良い方法はないのか、日々変化する症状に合わせた看護が行われているのかなど疑問を持ち続け、個別に合った看護を行っていきたいと思いました。

岩間真奈美

今回、看護研究を通して、改めてまた新たに看護について考える機会となりました。まず、現場で働く看護師が、問題や疑問に対して研究をしていることを初めて知り、看護師とは学び続ける職業であると実感しました。そして、毎年学会が行われているということは、看護とは1つの考えではなく、様々な視点から考えることであり、それにより自分の看護観が深めることに繋がると感じました。

また、看護師は患者さんを尊重して関わることが重要であると、あらためて実感しました。患者さん的一番そばにいる存在であるからこそ、患者さんの思いを理解でき、必要な援助を提供することができます。さらに、得た情報を多職種と共有することで連携を図り、健康へと導くことができると思います。どの研究も患者さんことを一番に考えたからこそその言葉や援助、

アンケートの返答があり、それが大切なことだと改めて確認することができました。



平田彩奈

私たち39期は、平成29年11月11日に戴帽式を迎えた初めてのころ話し合いをしても、相手を尊重するような面がみられることは少なく、意見がぶつかることが多かった。しかし、それは“戴帽式をより良いものに作り上げたい。”と皆の強い思いがあったから起きていたのだと感じた。何事にも本気で向き合う39期にしか作れない最高の戴帽式を作ろうと何度も話し合いを行った。その結果、悔いのないものを作り上げることができた。戴帽式を通して、それぞれの目標を再確認することができ、仲間と支えあいながら日々成長していきたいと思った。これからも学級目標である「初志貫徹~秘すれば花~」を胸に勉学に励み、理想の看護師になれるよう努力していきたい。



お勧めの一冊



『都市と野生の思考』

鷺田清一、山極寿一 著
インターナショナル新書 740円+税



「哲学者にして京都市立大学長の鷺田清和とゴリラ研究の世界的権威にして京都大学総長の山極寿一による対談」である。

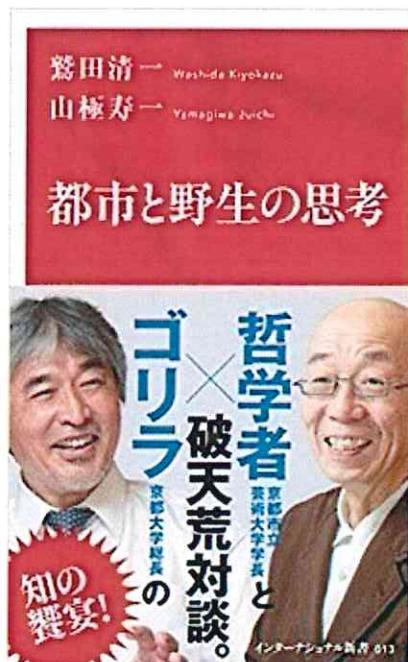
教育現場は最近息苦しい。経済界との関係が色濃くなり、経済界にとって都合の良い教育が強化され、成果を求められている。そんな流れに簡単に乗らされたくはない。では私たちは何を目指せばよいのだろう?としばしば瞑想する。そんな折 Amazon でひょっこりとこの本のテーマが目にとまった。早速本を注文し、読み始めると思いのほかわかりやすく、二人が目の前で対話しているように感じ、どんどん読み進めることができた。

ところで、この二人はとても変わった研究者だ。鷺田氏は哲学の中でも臨床哲学を専攻し、現象学や身体論を研究していてファンションに関する著書も多い。日常の中に哲学を見出し論ずる研究者である。一方の山極氏はゴリラの糞を2万個も分析し、ゴリラの一集団を追跡するというごつい研究者である。類人猿を「人間の過去を探る辞書のひとつ」として敬愛している。

そんな二人が「大学」「老い」「家族」「アート」「教養」「AI」などをテーマに縦横無尽に対話する。その中で「しんがりの思想」が語られている。ゴリラのリーダーは本当は強い力を持っているがそれを抑制できるから他の動物や子どもが安心して寄ってこられる。しんがり(最後尾)で全体を見守り、いざ事が起こりそうになったら駆けつけて難を逃れる。ゴリラの世界では勝ち負けをつくらず、相手を遠ざけないそうだ。つまり「負けない論理」であり、他者を惹きつけ、他者を許容する。一方ニホンザルは勝敗を明確にして、勝った方が全てを独占する「勝つ論理」。つまり力づくで他者を押さえつける。ん?後者の方は今の日本やアメリカの政治でもよく見られる態度だ。二人は、先進諸国で軒並み人口が減少している現代においては勝つことよりも負けないことが大切であると述べる。

私は、大学のトップである二人がリーダーシップについて勝ち負けの理論、言わば経済界の理論ではなく、しんがりマインドで語っているように思えた。そして、大学はジャングル、つまり多様性が保障される場であることが大切であり、多様性は大学の安定性を生むと語っているのが印象に残った。

さて、ここまで辛抱強く読んで下さった皆さん。私の拙い言葉はさておき、この本はきっとあなたの知的好奇心を刺激してくれるでしょう。ということで、私のお勧めの一冊でした。



原水禁世界大会2017を終えて

芦澤苑実

午後1時半頃長崎に到着し、バスを降りた瞬間むつとした暑さを感じました。空は晴れ渡り、心配していた台風を忘れてしまう程の晴天に恵まれ、私たちを歓迎してくれているようにも思いました。

バスの不具合により、1時間遅れて午後4時から、原水禁世界大会2017に参加しました。会場には、6000人の人々が集い、体育館に一步踏み入れると、物凄い熱気を感じました。被爆者や多くの国の代表者が、核兵器反対への強い意志を表明し、演説者に対するスピーチを遮るほどの賛同の拍手や、時折「そのとおりだ！」「いいぞ！」と言った声が飛び交っていて、圧倒されました。しかしスピーチを聴きながら、私の気持ちとの大きな温度差をひしひしと感じ、だんだんと居心地が悪く感じてしまいました。私はまず原爆がどんなものかも知らず、世界規模での拡反に対する日本の立ち位置などを学びに行きましたが、壇上に立つ人の中には小中高生、同年代の方が多くいました。これを駆除で例えるなら、彼女たちが大粒の汗を流し、襷をつなぎ、沿道で声援を送る人まで巻き込んで走っているのに、私はその様子をテレビ中継で見ることもなく、勉強が面倒だと嘆いたり、親に文句を言っていたりする、そのような感覚になり、その会場にいること自体が恥ずかしく、正直、帰りたくなりました。

私が特に印象に残っているのは、世界6か国の代表の最後の1人、アメリカ出身のジム・アンダーソンさんのスピーチです。彼は禁止条約交渉会議にあわせたシユーヨーク行動の中心を担ったピースアクション・ニューヨーク州の会長です。まずひと目に、被爆者の方々に向けて謝罪の言葉を送りました。日本を悲惨な状態に陥れたアメリカの代表として、謝ったのです。それは、当たり前なのかもわかりませんが”NO MORE NUKES“を掲げる1人としてスピーチを聴きはじめた私は、とても驚きました。現在アメリカは、歴史的転機がおき7月7日に122か国賛成により可決された核兵器禁止条約へ加盟しておらず、核兵器廃止に消極的であり、むしろ積極的です。しかし、アメリカの核兵器廃止運動を行う人々は、当時のことに自分が直接関与していくなくとも、自國の人間の過去の過ちを悔やみ、罪悪感にさいなまれていて、現在のアメリカ政府に反対の旗を掲げ戦っていると分かりました。それと同時に、他の国の演説者よりも参加者の拍手が小さく少ないように感じ、やはり壮絶な経験をした被爆者の恨みは、消えきらない、72年たった今でも消すことは出来ないではないか、とも感じました。

又、ある被爆者の方の “私の話、被爆者の話を聞いて、あなたたち自身が語り部になれるのよ” という言葉がとても心に残っています。実際に経験した方でないと話してはいけない気がしていましたが、それでもいいのだと、体験談を形伝えていくことが大切なと思いました。

2日目の午前中被爆者の話を聞き、午後は資料館、平和公園などを訪れました。千羽鶴が至る所にあり、全国、世界からの平和に対する願いや想いを感じました。追悼平和祈念館へ行った際、被爆者の詩や日記などを朗読していただきました。被爆者は顔や身体にケロイドの跡が残り、後遺症が残り、化粧をいくらしても隠すことは出来ず、結婚は断られ、周りからは酷い視線を送られ、在りもしない悪い噂をささやかれ、本当に死ぬよりも苦しい思いをした、いっそ殺して欲しい、と話していたそうです。

もしも明日突然そんな世界になったら、今の私は、当時の人よりも何千倍も弱いので、もし運良く生きられたとしても、痛み苦しみに耐えられず自殺してしまうのではないかと思います。一瞬にして愛する人々が化け物のような姿になり、もう2度と目も合わせられず、笑顔を見られず、その上、傷の痛みだけでなく、精神的な痛みに耐えられる自信がありません。それでも強い意志をもって生き、思い出すだけでも苦しいことを、語り部として伝え、訴え、活動し続けていて、それに比べ今の自分は無知で、ちっぽけで、なんだか情けないというより、ひどく自分自身にショックを受けました。この大会に参加しなければ、愛情にも教育にも環境全てに恵まれていて気に気づくことが出来ず、現状に満足していつも通りの生活を送っていました。それに気づくことが出来ただけでも大きなものを得ることが出来たと感じています。

まずは自分の家族からヒバクシャ国際署名を集め、友達、友達の家族、母校の後輩たち、地域の住人へと広げていきたいです。報告で終わるのではなく、今の気持ちを忘れず継続して活動していきたいです。



報告会の様子

写真で振り返る 2017年 3年生



宮川先生から国試激励お赤飯をさし入れ



統合演習



卒業研究発表会で成島先生と

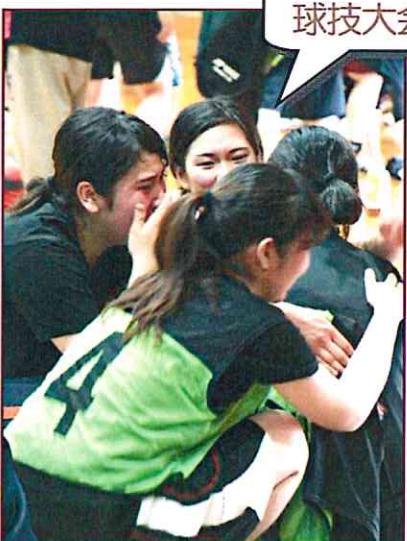


国家試験に、うっカレー！

(教職員の手作り)



球技大会



写真で振り返る 2017年 2年生

労働体験(成人看護学演習)



トリアージ(災害看護学)



校内実習(与薬)



実習で患者さんと一緒にカードゲーム



山梨看護学会(看護研究)

甲府提灯平和行進に参加
(甲府空襲の日)



写真で振り返る 2017年 1年生



デイサービス「たから」で音楽合唱発表(音楽授業)



学園祭



美術の授業

標本館見学

(病理学)



導尿のデモンストレーション



校内実習で洗髪



戴帽式

当事者を講師に

(老年看護学総論)



～学会参加報告～

岩波美和

学会・研修会名：日本看護学教育学会

第27回学術集会

テーマ「温故知新が照らす看護教育」



「教員が日常的な教育活動で倫理的葛藤を感じる場面を共有して得た学び」という研究結果を発表してきました。

本学会には、自身の研究結果の発表、担当分野の知見を広げることを目標に参加しました。研究発表や様々な講演・シンポジウムの中から、担当している老年看護学に関する各校の取り組み報告と意見交換に関する交流セッションに参加してきました。高齢者の歩みや歴史などの背景を知ること、対象理解を深めるための取り組み等を各校報告しました。興味深かったのは沖縄県の大学です。沖縄は第二次世界大戦で唯一戦場だったこともあり、戦跡を巡ったり、従軍看護師から戦時中の話を聴いたり、沖縄県と本島の歴史を年表にするなど、一年間かけて取り組むというものでした。家族にライフレビューも取るのですが、ほとんどの高齢者から戦時中の話が出るということで、沖縄県にとって戦争を知らないと高齢者を理解することができないということを改めて感じ、山梨や本校の学生が関わる高齢者にも戦争はあっても切り離せないものであると感じました。本校でも毎年高齢者の方と交流を持ち、戦争体験者の方から当事者授業も受けています。しかし、今年度から老年看護総論Ⅱの授業で、甲府健康友の会の方に協力していただき、インタビューを行うことが決定していたため、この報告も参考にしました。学会では他校の教育の実際を知り、自分が担当する領域に活用し、学生の学びにつなげられる機会であるため、今後も教育力向上のために目的意識を持って学会に参加したいと考えています。また、今後も看護研究に取り組み本校の教育についても発信していきたいと感じました。

◇2017年度 教員参加の研究・研修活動◇

- 5月3日 講演「発達に支援が必要な子どもと共に生きる」(押領司、岩波、河西)
- 5月13日 山梨県看護学校研究協議会
講演「臨床の知体で感じ考え方」(全教員)
- 8月11日 山梨県看護協会 セカンドレベル研修 (塩澤)
- 8月25-26日 日本難病看護学会
「日本語版 MSA-QOL ver2.0 の内容と原案作成過程」(押領司)
- 8月25-26日 日本看護学校協議会学会 (佐々木、小泉)
- 8月25-26日 フィジカルアセスメント研修 (河西、塩澤)
- 8月29日-30日 日本看護研究学会 「多系統萎縮症療養者のQOL 得点と生活との関連
～5事例の面接調査の結果から～」 (押領司)
- 8月 日総研 看護過程研修 (梶原)
- 9月5日 山梨県看護協会 セカンドレベル研修 (鈴木、藤本)
- 11月11日 山梨大学看護学会 (押領司)
- 12月9日 山梨看護学会
「看護学生の入学当初における清潔・衣生活に対する認識と援助を提供した経験」
(押領司: 学会運営委員、藤本、塩澤、鈴木、佐々木: 発表者、河西、小泉: 座長)
- 12月16日 山梨県看護学校研究協議会 (全職員)



facebook開設のお知らせ☆

2017年6月からfacebookを開設しました。日常の生活や実習での患者さんとのやり取り、地域との繋がりや平和への取り組みなど、学生が活き活きと学び合う様子を日々投稿しています。

日頃お世話になっている臨床や関係各所のみなさまはもちろん、学生を支えてくださるご家族のみなさまには、家に居る時とも違った看護学生としての新たな一面を知ることが出来る機会になれば幸いです。また、これから看護師を目指そうと考えている方には、当校で日々行われている教育活動の様子を知っていただくきっかけになればと思っています！

看護学校での学びは、多くの人に支えられ成り立っています。これからも共立高等看護学院で学ぶ学生の成長を発信し続けていきます。ぜひご覧ください！

☆共立高等看護学院ホームページからも閲覧可能です☆



2019年度4月入学者募集中

共立高等看護学院をご紹介下さい！

高校生はもちろん一般の大学卒業者、現在働いている方も受験できます。近隣 友人、知人の方に看護師を目指す方がいらっしゃいましたら、是非本校をご紹介下さい(本校は専門実践教育訓練給付制度の指定を受けています) 細かい日時はホームページ等でお知らせいたします。個別の学校説明希望には随時対応いたします。

5. 6月 入試要項配布開始・学校説明会

7, 8月 オープンキャンパス

10月 高校推薦入試・社会人入試

1月 前期一般入試

後期一般入試

県内で一番小さい看護学校ですがきめ細かな教育と豊富な実習の場があります。看護の対象を生活と人権意識と豊かな感性で捉えます。暖かい心と豊かな感性、確かな技術と知識を3年間で身につけます。日々の生き生きした学校の様子は 本校のホームページ、Facebookでご覧いただけます。

本校のパンフレットの一部 全体はホームページにてご覧になれます

父母の会より

■経過・予定

2017年

4月 2017年度総会・新入生に入学式記念写真贈呈

7月 2年生3年生合同部会・第一回役員会

雑草祭にて手作りカレーを販売

8月 長崎の原水爆禁止世界大会参加学生2名に補助（課外活動補助費）

2017年度会費5000円納付通知発送

11月 1年生戴帽式会長出席、記念品贈呈（ナースウォッチ一写真）

2018年

1月 2年生実習激励と成人祝い記念品贈呈（図書カード）

2月 3年生国家試験学習応援の手作り豚汁提供

3月 3月3日 三年生卒業記念品贈呈-卒業式

同日 第2回役員会（12時頃）

4月 4日入学式・父母の会総会

■2018年度共立高等看護学院父母の会総会案内

2018年4月10日(火)12時半-13時半 共立高等看護学院4階

年度活動計画 年度予算 役員選出

1年生贈呈ナースウォッチ



雑草祭カレー作り



学校より

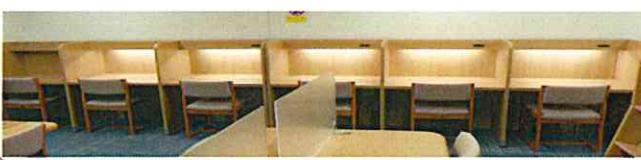
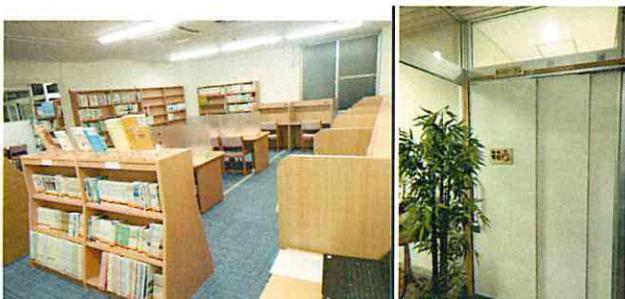
■御家族の皆様へのお願い

各学年とも学年の仕上げに向けて奮闘しています。感染症も流行っています。

次の点につきまして引き続き学生の皆さんへのサポートをお願いいたします。

- ①規則正しい生活・健康維持
- ②学習時間確保
- ③精神的サポート
- ④経済的サポート

■多目的トイレ設置、図書室と更衣室を一新しました



2018年当面の予定

3月2日 37期生卒業式・父母の会役員会

5日 二年生期末試験

9日 終業日

22日 新入生入学前オリエンテーション

23日 //

26日 第107回看護師国家試験結果発表

4月9日 始業日

10日 入学式・父母の会2018年度総会

5月

17日 全校球技大会

編集後記 前号発行から1年2ヶ月も経ってしまいました。この間、36期生の卒業、39期生の入学、そして37期生の卒業を目前にしています。掲載したい記事も多く、12ページ立てとなりました。学校や学生さんの生き生きとした様子を感じていただけますと幸いです。世界や日本社会能聞きには希望と共に不安になることも多いこの頃ですが、平和な社会であることを願わずに入られません。平和とは一人ひとりの命が大切にされることだと思います。その中でこそ看護がより一層輝きを増します。教職員一同引き続き頑張ります。(k)